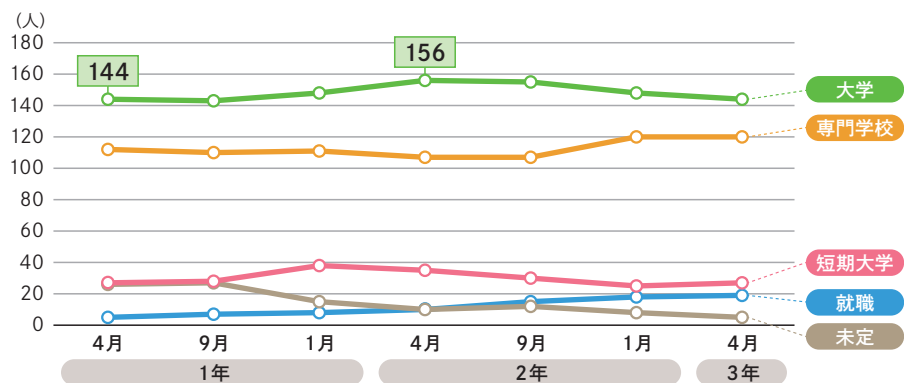


## 生徒一人ひとりの希望進路を 定期的・多角的に見取る

ピックアップデータ ベネッセコーポレーション「実力診断テスト」(\*)

### データ 進路が多様な高校における希望進路の変化

#### ① 1年4月～3年4月の 各希望進路の 生徒数の推移



注1) 進路が多様なA高校における1年4月～3年4月(同一学年)の「実力診断テスト」での希望進路アンケート結果の推移。

#### ② 2年4月時点で、 1年4月から希望進路 を変更した生徒数

		2年4月(321人)						計(人)
		大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定	
1年4月(318人)	大学	113	10	15	2	1	3	144
	短期大学	5	12	10	0	0	0	27
	専門学校	24	10	71	2	2	3	112
	就職	0	0	0	4	0	1	5
	その他	3	0	4	0	0	0	7
	未定	11	3	7	2	0	3	26
計(人)		156	35	107	10	3	10	

注2) 1年4月と2年4月の希望進路アンケート結果のクロス分析。

2年4月時点の  
大学進学希望者  
12人の増加の背景

= (①新たに大学進学を目指した43人) - (②別の進路に変えた31人)

さらに、データから自校の生徒の傾向をつかみ、対策を考えることは、学校全体で組織的な指導を行う上で有効な手段だ。生徒の学力や学習習慣、進路のこだわりなどから傾向を探ったり、特定の時期に希望進路を変更する生徒が多いと自校のデータから読み取れる場合は、それ以前に実施している進路行事の内容や形を見直したりすることなども、多角的なデータ活用の一例だ。データを一面的に捉えることなく、様々な面から分析し、指導に生かしていきたい。

進路が多様なA高校における、ベネッセの「実力診断テスト」の結果を集計した希望進路に関する2つのデータを見てみる。各希望進路の生徒数の推移のうち、大学進学希望者に着目すると、1年4月から2年4月の1年間で12人増えている(データ①)。その2時点における希望進路のクロス分析をすると、新たに大学進学を目指した43人と、大学進学から別の進路に変えた31人がいることが分かった(データ②)。そのように、生徒の進路が多様な高校では、生徒の希望進路が、大学から就職へ、専門学校から大学へなど変化することがしばしば見られる。だからこそ、希望進路調査は定期的に行い、生徒のその時点での希望進路を把握するだけでなく、以前との変化に着目することがポイントだ。そして、希望進路を変更した生徒に対しては、変更理由を確認し、その理由に応じた指導をしていきたい。

\* ベネッセが提供する、生徒の「なりたい自分さがし」と「なりたい自分づくり」をサポートする教材「進路マップ」シリーズの1つで、教科書レベルを中心に基礎学力を測る記述式テスト。